

Proof Checker Pro ver.3 新機能ガイド

● ver.3 起動に必要な項目

ver.2 同様、Proof Checker Pro を起動するには、下記の項目を同じ階層に入れてください。

※アプリケーションファイル以外のファイル名は、ver.2 と同じですが、ファイルが異なります。

必ず、ver.3 用のファイルをフォルダに入れて、アプリケーションを起動してください。

◎ Windows XP/Vista/7 版

「Proof Checker Pro」アプリケーションファイル

「j2b.dll」ファイル

「start.dll」ファイル

◎ Macintosh OSX 版

「Proof Checker Pro」アプリケーションファイル

「j2b.bundle」ファイル

「start.bundle」ファイル

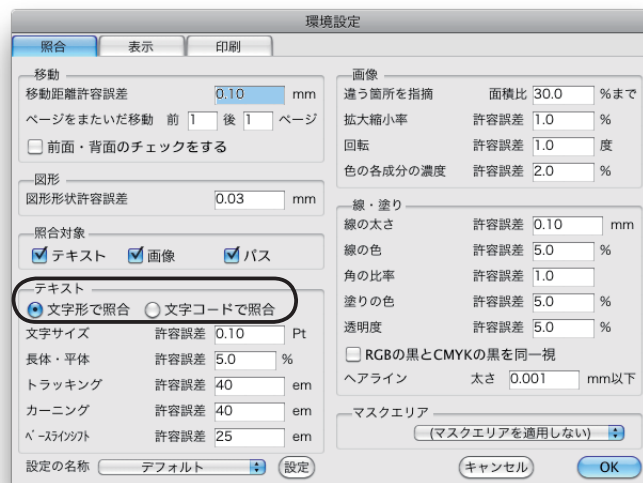


1. マルチランゲージへの対応

ver.3 より「環境設定」→「照合」タブに「文字形で照合」が追加されました。

「文字形で照合」では、埋め込まれた文字の形状で照合が行われます。

そのため、言語に関わらず PDF に文字が埋め込まれていれば照合を行う事が可能です。



※テスト済み言語は以下の通りです。

日本語、英語、イタリア語、オランダ語、ギリシャ語、スペイン語、タイ語、ドイツ語、トルコ語、フランス語、ベトナム語、ポルトガル語、マレー語、ロシア語、韓国語、中国語（簡体）、中国語（繁体）

※照合するPDFファイルに文字が埋め込まれていない場合は、「文字コードで照合」に設定し、照合を行ってください。但し、照合結果で埋め込み文字でない部分は、代替フォントで表示されます。

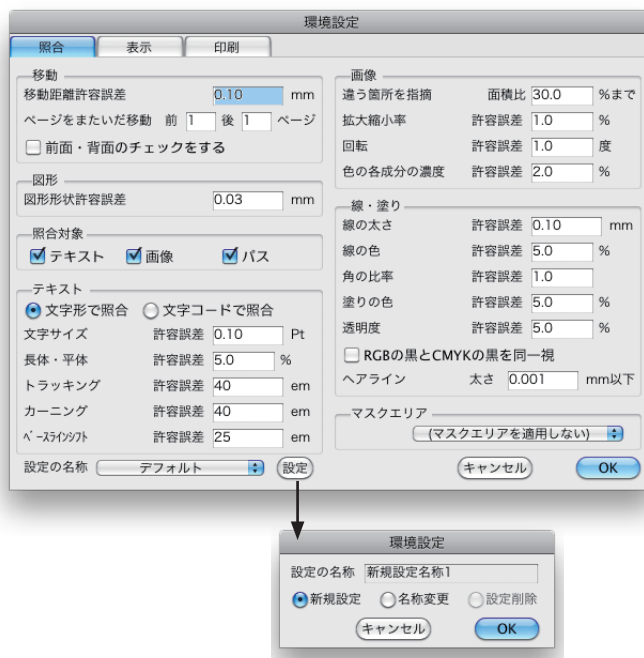
2. 環境設定の保存

環境設定の保存が可能となりました。

●名前を付けて環境設定を保存する方法

- 1 「環境設定」ウィンドウ一番下にある「設定」ボタンをクリックします。表示されるウィンドウの「設定の名称」に設定名を入れ、OK ボタンをクリックします。

※「環境設定」→「新規設定」より設定作成したときの設定値は、アプリケーションの初期値です。



- 2 「設定の名称」の設定名が変更されたのを確認後、環境設定を変更します。
- 3 OK ボタンで環境設定を閉じると、現在選択されている設定に上書きされます。

●保存した環境設定ファイルに切り替えて照合を行う方法

「環境設定」→「デフォルト（もしくは設定した名称）」をクリックすると、保存した設定名称が表示されます。照合を行う設定を選択し、OK ボタンをクリックします。

※保存した環境設定ファイルは、アプリケーションフォルダ→「照合設定.prf」ファイルに含まれます。複数のPCで同じ設定を使用する場合は、このファイルをコピーして使用して下さい。

※「照合設定.prf」ファイルはMac/Win互換可能です。

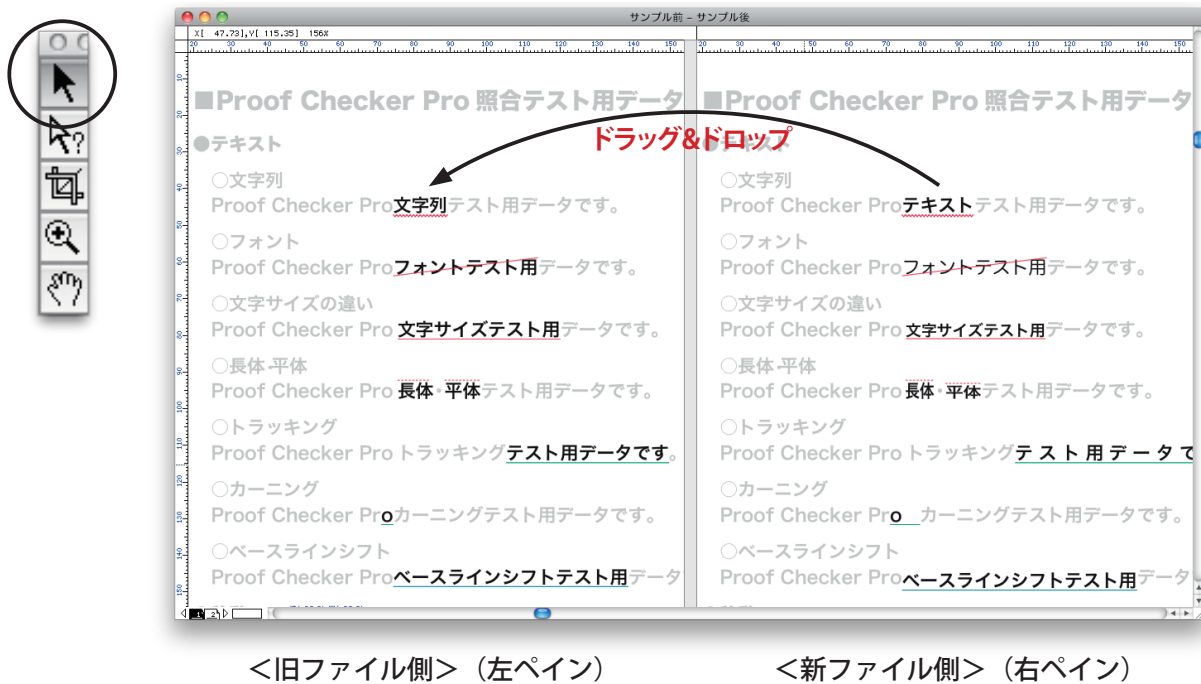
※環境設定を初期設定に戻す場合は、アプリケーションを終了した状態で、アプリケーションフォルダ→「照合設定.prf」ファイルを削除してください。

※「照合設定.prf」ファイルはアプリケーションを起動すると作成されます。

3. マニュアル比較ツール

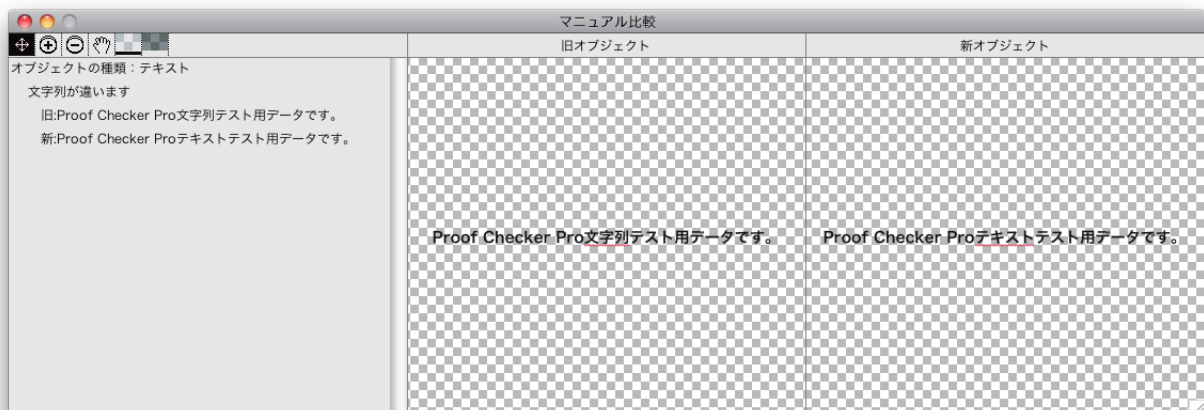
ver.2 までにもあったヒント表示をバージョンアップしました。

1 照合結果が表示されている状態で、ツールパレット→「選択ツール」で新ファイル側（右ペイン）から旧ファイル側（左ペイン）へ不一致指摘されている部分をドラッグ&ドロップします。



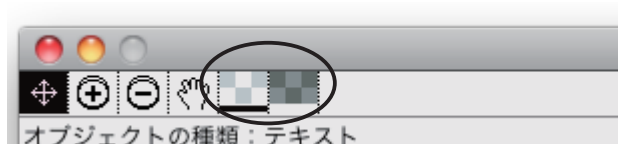
2 下図の様なウィンドウが表示されます。

ウィンドウ内ではプレビューが表示され、プレビューの拡大縮小が可能です。



プレビューの左側にはドラッグ & ドロップしたオブジェクトの不一致理由が表示されます。

※ドラッグ&ドロップしたオブジェクトの濃度が薄い場合、マニュアル比較で表示されたウィンドウの左上にあるボタンより、プレビュー背景の濃度を変更する事ができます。



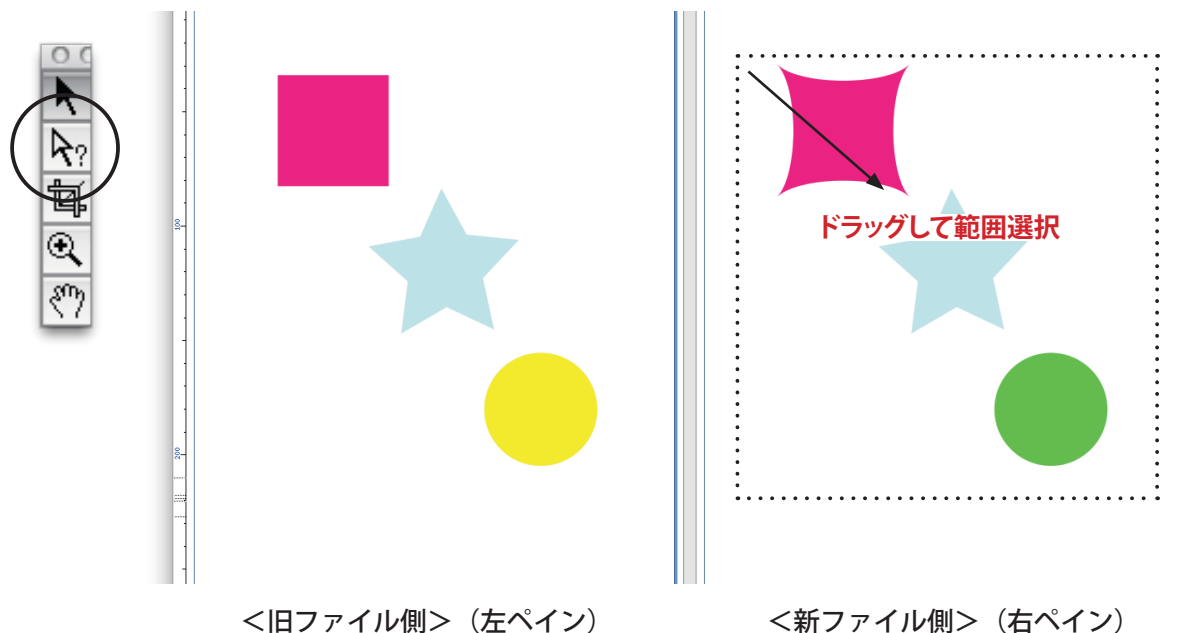
4. セレクト比較ツール

照合結果のオブジェクトの一覧表とプレビューを表示します。

「マニュアル比較ツール」は「手動での不一致ヒント」表示するのに対し、

「セレクト比較ツール」は「Proof Checker PRO が判定した詳細」を表示します。

照合結果が表示されている状態で、ツールパレット→「セレクト比較ツール」で、新ファイル側（右ペイン）もしくは旧ファイル側（左ペイン）の調べたい範囲をドラッグして範囲を指定します。



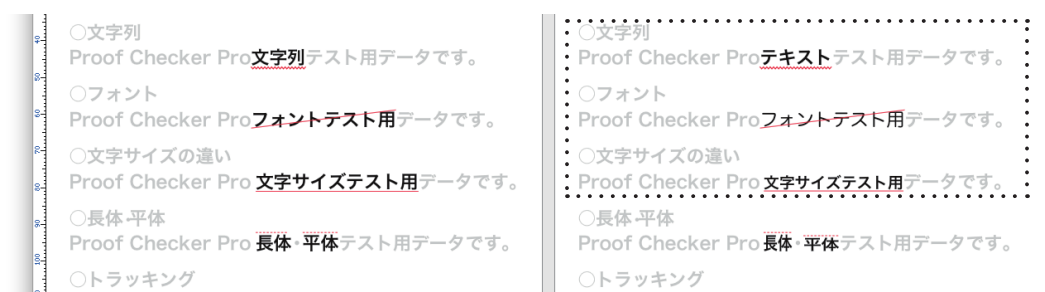
※「セレクト比較ツール」は新ファイル側(右ペイン)・旧ファイル側(左ペイン)どちらでも使用可能です。

※「セレクト比較ツール」で範囲指定する場合は調べたいオブジェクトすべてが覆われるようにドラッグ選択してください。

※「セレクト比較ツール」は新ファイル側(右ペイン)・旧ファイル側(左ペイン)の不一致マークをクリックしても詳細ウィンドウが表示されます。

●文字の範囲指定方法

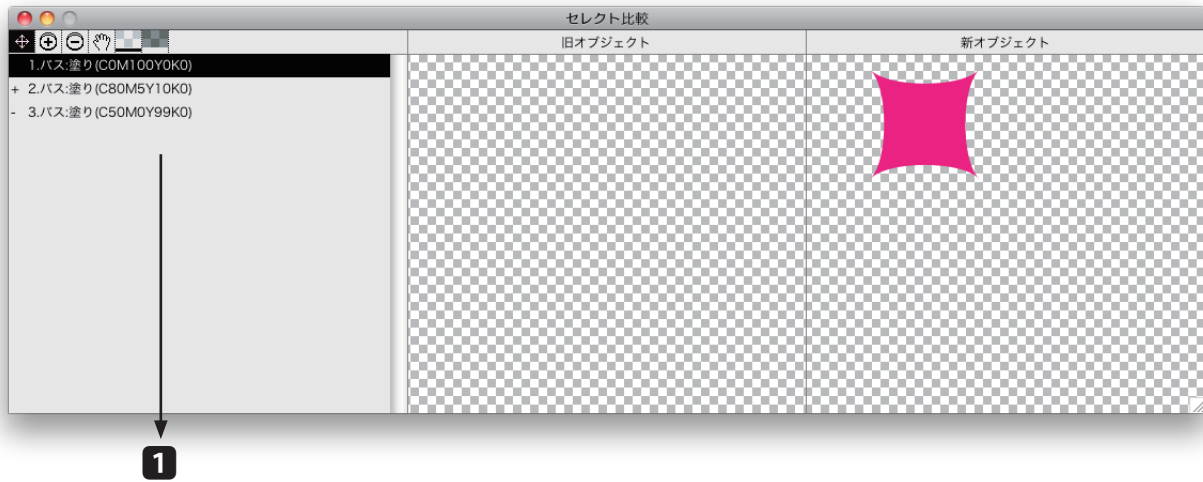
「セレクト比較ツール」で文字を範囲指定する場合、不一致部分だけでなく文章全体を覆うように選択する必要があります。



※Proof Checker PROでは、PDF内の文字をつなぐ処理がされているため、部分的に選択してもウィンドウ表示されませんのでご注意ください。

● 「セレクト比較ツール」で表示されるウィンドウについて

P4の方法でセレクト比較を使用すると下図の様なウィンドウが表示されます。



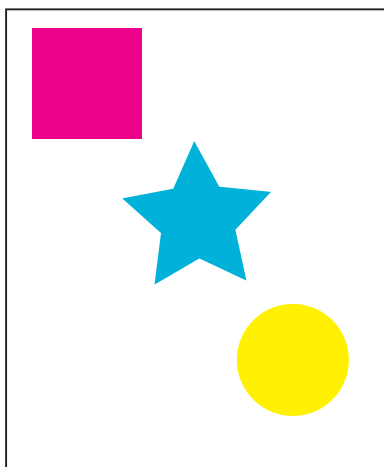
- 1** 「セレクト比較ツール」で選択された範囲に含まれるオブジェクトを階層順にリスト表示します。
リスト表示左側「+」のついた部分は、完全一致のオブジェクトが相手ファイルにあることを示します。
リスト表示左側「-」のついた部分は、部分一致のオブジェクトが相手ファイルにあることを示します。
リスト表示左側になにも表示がなかった場合は、一致するオブジェクトがないことを示します。

ウィンドウ内のリスト表示の部分をクリックすると、プレビューが表示され、照合結果ウィンドウ内の該当オブジェクトが黒枠で選択されます。

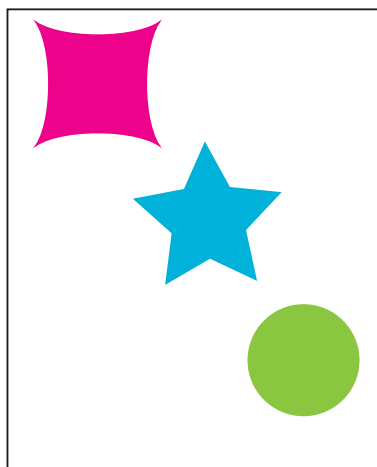
● 「セレクト比較ツール」 詳細ウィンドウの見方

例えば、下図の様な PDF ファイルを比較した場合

<旧ファイル>



<新ファイル>

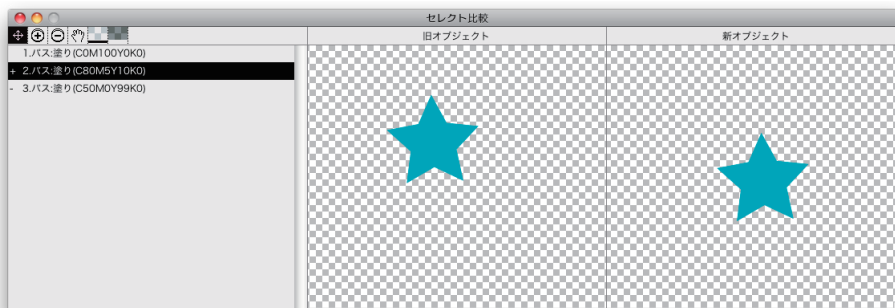


新ファイル側の3つのオブジェクトを「セレクト比較ツール」で選択した場合の詳細ウィンドウは下図のように表示されます。

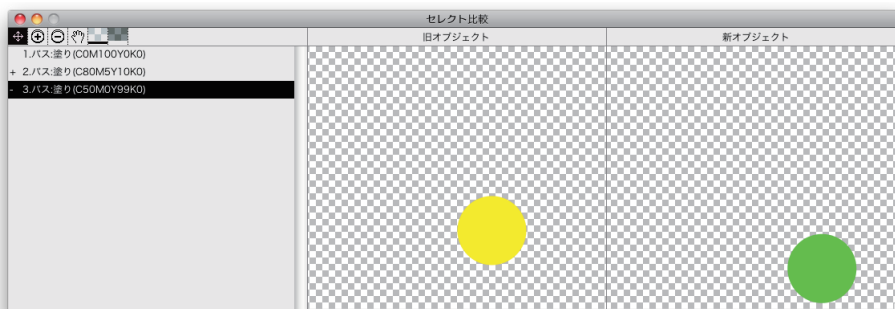
●赤のオブジェクトは、旧ファイル側に同じオブジェクトがないと判定されたため、旧オブジェクトのプレビューには何も表示されません。また、リスト表示の表記左には何も表示されません。



●青のオブジェクトは、旧ファイル側に照合対象があると判定されたため、新オブジェクトの照相手として旧オブジェクトにプレビューが表示されます。またリスト表示の左には「+」が表示されます。



●緑のオブジェクトは、旧ファイル側に照合対象があると判定されたため、新オブジェクトの照相手として旧オブジェクトにプレビューが表示されます。またリスト表示の左には「-」が表示されます。



5. プロパティ表示

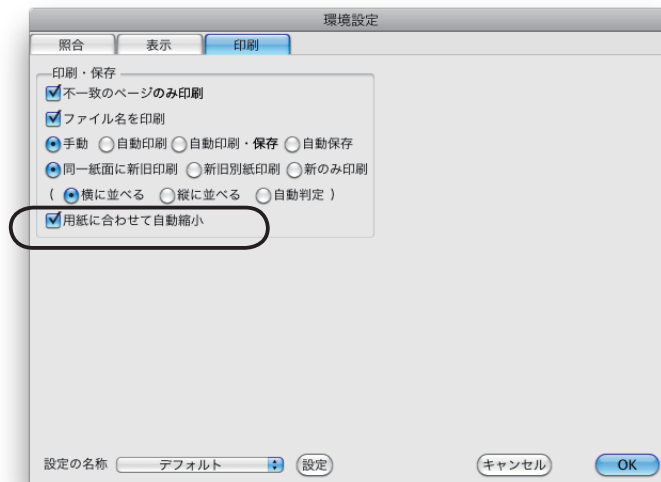
照合を行った PDF のプロパティを Proof Checker PRO 上で確認可能となりました。

1 照合結果が表示されている状態で「ファイル」→「文書のプロパティ」を選択します。



6. 等倍出力の対応

「環境設定」→「印刷」タブ→「自動縮小」のチェックを外すと、等倍で出力されます。



※「同一紙面に新旧印刷」を選択し、このチェックを外した場合、照合結果の一部が用紙からはみ出す事があります。ご注意ください。

※初期設定は「自動縮小」のチェックが入っています。

7. Windows7 への対応

Windows7 に対応しました。

※Windows XP/Windows Vista/Windows 7は32bit版対応です。

※Windows XP/Windows Vista/Windows 7は、管理者の権限を持つユーザー (Administrator) で使用できません。マルチユーザーには対応していません。

以上